

2010 年度 博士論文題目（課程博士）

氏 名	論 文 題 名
西 丸 良 一	中等教育における公立校と私立校の進路分化に関する実証研究 ——学力と教育達成のねじれと高卒就職に注目して——
ニコール コマファイ	The Sociology of People with Special Needs in Times of Disaster (PSND) : Assessing the Special Needs of PSND Using Person-in-Environment Model of Vulnerability
多 喜 弘 文	学校教育と不平等の日本の特徴に関する実証研究 ——社会階層と学校トラックの関連を中心に——

2011 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
崔 藍 心	離婚の諸要因とその後の生活への影響 ——全国家族調査日本（NFRJ）2003 データを用いて——
劉 璿 舒	中国における ACG ファンサイトのエスノグラフィー

執筆者紹介

森川眞規雄

同志社大学社会学部教授

社会人類学、中国人移民社会研究

藤本 昌代

同志社大学社会学部教授

仕事の社会学、高学歴者層の移動研究、組織と制度研究、地域産業社会学

金 貴玉

漢城大学校教授、同志社大学客員研究員（2010年9月～2011年7月）

朝鮮半島の分断とディアスポラ

片岡 佳美

島根大学法文学部准教授

家族社会学

猿渡 壮

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程

政治社会学、社会意識論

ハッカライネン・ニーナ

同志社大学大学院社会学研究科 特別研究生

労働社会学、移民研究、日本における高学歴外国人のキャリアパス

山本 圭三

摂南大学経営学部講師

職業社会学、社会意識論、社会調査法

松川 杏寧

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程

犯罪社会学、環境犯罪学、防犯

松本亜沙香

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程
災害社会学

立木 茂雄

同志社大学社会学部教授
家族社会学、災害社会学

『同志社社会学研究』編集規定

【1】本研究誌は同志社社会学研究学会の機関紙として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。

【2】掲載内容は以下のものとする（枚数：400 字）

研究論文（40～60 枚）

研究ノート（20～30 枚）

書評

その他

【3】編集委員は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生の代表により構成される。専門委員は本学社会学科教員より構成される。

【4】投稿者は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生とする。

【5】原稿は書籍、学術雑誌に未発表のものに限る。掲載の可否は、専門委員の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。

【6】原稿の締め切りは 12 月末、発行は 3 月とする。投稿者は 10 月末までに専門委員 1 名に草稿を送付するとともに投稿の意思を伝え、12 月末までに当該専門委員に最終原稿を送付しなくてはならない。

【7】執筆要領

横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌『社会学評論』に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。

【8】提出原稿の形式

原稿には日本語と英文タイトルをつけ、ハードコピー（40 字×40 行）と電子媒体で提出すること。

【9】執筆者の原稿は、同志社大学ホームページ上の「同志社大学学術リポジトリ」上に公開することを原則とする。

【付記】

その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

（2009. 7. 26 改正）

◆ 研究室だより ◆

第 16 号は、研究論文 5 本、研究ノート 1 本、セミナー 2 本と盛りだくさんな内容となりました。原稿が不足気味で編集委員が寄稿依頼をしなければならない年もあるのですが、本号はその心配が全く不要でした。

2011 年度は、鵜飼孝造先生がニューヨークの New School for Social Research での在外研究、鯉坂学先生が国内研究と、「主力選手」を失ったのみならず、尾嶋史章先生が社会学部長、藤本昌代先生が日本語・日本文化教育センター所長と、いわゆる「執行部」に 2 人とられ、学科の運営がなかなか大変な 1 年でした。尾嶋先生は、そんな多忙のなか、最新の SSM 調査をもとに共編著『現代の階層社会 1 格差と多様性』（東京大学出版会）を出版されました。また、私事で恐縮ですが、板垣も日韓共同研究の成果として共編著『東アジアの記憶の場』（河出書房新社）を上梓しました。その他の先生方もみなお忙しく活躍しておられます。

近年、国際交流も活発になっていますので、報告しておきたいと思います。2010 年度の秋に米国のコロラド・カレッジから客員研究員としていらっしゃった Joan Ericson 先生は、2011 年度春学期には客員教員と身分変更し、近代日本の子ども像などを中心とする文化史を教えて下さいました。韓国の漢城（ハンソン）大から 1 年間客員研究員としていらっしゃっていた金貴玉（キムギョク）先生は、滞在中に鍛えた日本語で、帰国前に論文を 1 本寄稿していかれました。また、鵜飼先生と交代するかのようなタイミングで、New School から客員教員として来られたのが池上英子先生です。池上先生は比較歴史社会学者として著名な方ですが、社会学科主催で 2012 年 1 月に開催された講演会では、「アバターたちのコミュニティと社会学的想像力」という極めて現代的なバーチャル・ネットワークのお話をされ、守備範囲の広さを見せつけてくださいました。

2011 年度は修士論文が 2 本と数のうえでは少し寂しい感じでしたが、他方で社会学専攻博士課程出身者の就職は下記のとおり順調に決まっています。

田中志敬：2011 年 1 月～ 福井大学教育地域科学部附属地域共生プロジェクトセンター・助教（任
期付）

河口充勇：2011 年 4 月～ 東京女学館大学・講師

山本圭三：2011 年 4 月～ 摂南大学経営学部・講師

湯浅俊郎：2012 年 4 月～ 京都華頂大学・准教授

西丸良一：2012 年 4 月～ 龍谷大学社会学部・助手（任期付）

多喜弘文：2012 年 4 月～ 東京大学社会科学研究所・助教（任期付）

みなさん、おめでとうございます。

2012 年度から同志社大学では博士後期課程の無償化がスタートします。これが吉と出ることを祈っています。
(板垣)

◆ 編集委員 ◆

立木 茂雄（同志社大学社会学部）

板垣 竜太（同志社大学社会学部）

杉本久未子（大阪人間科学大学人間科学部）

松本亜沙香（博士後期課程）

岡本 洋一（博士後期課程）

河村 咲弥（博士前期課程）

同志社社会学研究 第16号

2012年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社